

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.2
Q1 室内環境					0.40			3.3
1 音環境				3.2	0.15	-	-	3.2
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル				3.0	1.00	-	-	
2 設備騒音対策				-	-	-	-	
1.2 遮音				3.5	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		T-2の遮音性能を有するサッシを使用		5.0	0.30	-	-	
2 界壁遮音性能		40dB遮音性能を有する乾式壁を使用		4.0	0.30	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				1.0	0.20	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20	-	-	
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境				3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-	
1 室温				3.0	0.60	-	-	
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-	
3 外皮性能				3.0	0.40	-	-	
4 ゾーン別制御性				-	-	-	-	
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境				3.8	0.25	-	-	3.8
3.1 昼光利用				4.2	0.30	-	-	
1 昼光率		部屋の大きさに対して大きな開口を確保		5.0	0.60	-	-	
2 方位別開口				-	-	-	-	
3 昼光利用設備				3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 昼光制御		庇とカーテンの併用		4.0	1.00	-	-	
3 映り込み対策				-	-	-	-	
3.3 照度		平均照度690ルクスを確保(机上面)		4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-	
4 空気環境				3.4	0.25	-	-	3.4
4.1 発生源対策				3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質				3.0	1.00	-	-	
2 アスベスト対策				-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-	
4 レジオネラ対策				-	-	-	-	
4.2 換気				3.0	0.30	-	-	
1 換気量		シックハウスを満たす換気量の1.4倍以上を確保		5.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能				3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.33	-	-	
4 給気計画				-	-	-	-	
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	
2 喫煙の制御		校舎全体が禁煙		5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.4
1 機能性				3.3	0.40	-	-	3.3
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性				-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-	
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観				3.0	0.50	-	-	
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	
3 内装計画		設計にあたり内観パースを作成し、照明計画も同時に計画		5.0	0.50	-	-	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務				-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.7	0.31	-	-	3.7
2.1 耐震・免震				3.8	0.48	-	-	
1 耐震性		地震力を1.25倍に割増して構造計算を行う		4.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.7	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		Fc=36,水セメント比50%以下、設計かぶり=最小かぶり+10mm		5.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外ダクトはステンレスダクトを採用		5.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種全てでB以上を採用		4.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性			3.8	0.19	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	節水器具・中水設備の採用と配管の系統分けを実施	5.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	「耐震クラスA」を確保する方法(A種耐震支持部材の選定)を採用	4.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	ケーブルの引込。設備は全て室内とし水掛りがないように配慮	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.4	0.29	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.0	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	3.72mの階高を確保	4.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	平面計画をコの字とすることで、外周壁の長さが長くなった	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	-	-	
3.3 設備の更新性			3.3	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	構造部材を破壊せず更新でき、ゆとりを持った配管スペースを計画	4.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース	主要機器について予備スペースを確保	4.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.4
1 建物の熱負荷抑制		日射遮蔽を考慮したバルコニー計画と複層ガラスの採用	5.0	0.30	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		2.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光発電パネルの設置	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		高効率機器、自然エネルギー利用等により、ERR値=45.3%	5.0	0.30	-	-	5.0
集合住宅以外の評価 (ERRによる評価)		ERR=45.3%	5.0		-	-	
集合住宅の評価			3.0		-	-	
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
4.1	モニタリング	中央監視システムの採用	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	エネルギー管理の重要性を説明し、施設運用管理者を専属で常駐	4.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.8	0.15	-	-	3.8
1.1	節水	節水性の高い器具を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.6	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水再利用設備の採用	4.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.63	-	-	2.9
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	-	3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=1の断熱材を使用	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		自然エネルギーの採用等、運用段階でのCO2排出低減計画	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1	大気汚染防止	ガス給湯器(低CO低NOX高効率給湯器)を採用	4.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.3	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制		1.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.60	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	0.20	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.20	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	